

令和 6 年度 清原東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（１）基本目標

日本国憲法及び教育基本法にのっとり「人間尊重の教育」を基盤とし，一人一人の児童を正しく理解し，個性を尊重し，よりよき人格の陶冶を図り，「主体的で知・徳・体の調和のとれたたくましく生きる児童」を育成する。

（２）具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・心豊かで思いやりのある子ども（やさしい子）
- ・進んで学びよく考える子ども（まなぶ子）
- ・健康でたくましい子ども（たくましい子）
- ・心をつくして働く子ども（はたらく子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「学びの連続性を踏まえ，児童が社会において自立的に生きる基礎を培う活気に満ちた学校づくり」

小学校教育は，生涯学習の基礎づくりの段階である。児童が社会で自立的に生きるために必要とされる力を身に付けることができるような教育活動を展開し，一人一人が自己実現に向けて意欲的に挑戦できる魅力ある学校の創造に向け，保護者や地域等の協働のもと，全職員が一丸となって取り組む。それぞれの持ち味や専門性，よさを発揮し，自他の創意と向上を尊ぶ教師集団であることが，活気に満ちた学校づくりの基盤である。教職員・児童が存分に力を発揮し，「楽しく，居がいがあり，互いの成長を実感できる」学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）学習指導の充実

○基礎的・基本的な「知識・技能」の習得，「思考力・判断力・表現力等」の育成，「学びに向かう力，人間性」の涵養を目指し，確かな学力を育む学習指導の充実を図る。

- ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組み，教員の指導力の向上を目指す。
- ・図書やＩＣＴ等（ＡＩ型学習ドリルを含む）を計画的・効果的に活用した教育活動の充実を図る。

（２）児童指導の充実

- ・一人の人間として尊重し自己有用感を高める指導を行い，思いやりや規範意識，やりぬく心の育成に努める。
- ・道德教育の充実及び児童の主体性を尊重した教育活動を展開し，自己指導力の向上を図る。
- ・人権教育を推進し，いじめ防止や不登校対策，特別支援教育や外国人児童の支援を充実させる。

（３）教職員の資質能力の向上

- ・教育公務員としての使命と職責を自覚し，相互に学び合い高め合える同僚性の構築と教職員の指導力の向上を目指す。（OJT や校内研修を活用して，授業力や学級経営力の向上を図る。）
- ・業務の効率化及び長時間勤務は正に全教職員で取り組み，学校における働き方改革を推進する。

（４）危機管理意識の高揚

- ・普段から全教職員の危機管理意識の高揚を図るとともに，危機的状況に対した場合，最悪の状況を想定して初期対応を迅速かつ慎重に進め，指揮系統を明確にした対応を図る。

（５）地域と連携した活動の充実

- ・家庭や地域，企業等との協働を推進することにより，様々な教育資源（ひと・もの・こと）を生かした地域とともにある学校づくりに努める。
- ・学校公開（授業参観，土曜授業，行事等），各種便り，学校ＨＰ等による情報発信を推進し，保護者や地域との連携を図り，信頼関係の構築に努める。
- ・保護者や地域の声を学校経営に生かすとともに，家庭的な問題を抱えている児童や外国人児童への対応を関係諸機関と連携を図り，よりよい児童の育成に向けて取り組む。

清原地域学校園教育ビジョン]

自己を見つめ，自己のよさを生かした夢の実現に向けて，主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage
～ 人との豊かなかかわりを通して ～

4 教育課程編成の方針

- ・公教育の立場から、教育法規関係、学習指導要領及び、県・市の教育行政の方針等を踏まえ、教育課程を編成する。
- ・教育目標の具現化を図るため、家庭や地域との連携・協力や教科横断等の視点を取り入れた「社会に開かれた教育課程」編成及びカリキュラム・マネジメントの充実に努める。
- ・義務教育9年間の学びの連続性を重視し、創意に満ちた特色ある教育活動が展開できるよう工夫する。
- ・問題解決的な学習の充実とともに、各教科等の関連を図り、言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力など学習の基盤となる能力や持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を育む教育活動の展開を目指す。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

社会を自立的に生きることができる児童の育成を目指し、人との豊かなかかわりを生かした活動に取り組むとともに、学校業務の効率化を推進する。

（2）学習指導

一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を習得し、分かる喜びを味わいながら、主体的・対話的に学習に取り組むことのできる児童の育成

（3）児童生徒指導

基本的生活習慣を身に付け、自他のよさを認め尊重するとともに、互いを高め合う児童の育成

（4）健康（保健安全・食育）・体力

心身ともに健康で安全な生活を送るために、望ましい生活態度や習慣を身に付け、進んで健康・体力づくりに取り組む児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考えて、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答90%以上	① 朝の学習や授業で、漢字や計算の練習や小テストを行うことにより、基礎学力の定着を図る。 ② 発達段階に応じて授業の形態を工夫し、対話的・主体的な学習を取り入れる。また、授業参観等で協働的な学習を実践していく	B	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○90.9% 教職員：▲77.8% 保護者：▲83.1% ・児童は達成できているが、保護者、教職員は目標値を大きく下回った。 【次年度の方針】 今年度の取り組みを継続しつつ、教職員の共通理解のもとに全校体制で取り組んでいく。職員研修で取り組みの周知を図り、実施状況の検討を行うようにする。

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童（わたし）は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答90%以上	① 問題解決的な学習や役割演技などの体験型の学習を取り入れることで道徳の「親切、思いやり」の授業を充実させる。 ② 縦割り班遊びを行うことで、異学年交流を充実させ、思いやりの心を育む。 ③ 動植物の世話を通して、思いやりの心を育む。 ④ ボランティア感謝の会を通して、地域の方への感謝の気持ちを表す。	達成状況】 ・肯定的回答 児童：○93.6% 教職員：▲77.8% ・児童は、目標数値を達成できたが、教職員は目標数値を下回った。 【次年度の方針】 ①道徳の授業を中心として日々の活動の中で、児童同士が認め合ったり協力し合ったりできる場面を意図的に設定する取り組みを拡充する。 ②今年度の取組を継続する。高学年としての自覚をもたせるために、縦割り班での清掃や遊びを継続する。 ③学年によっては動植物にふれる機会が少ないため、主な取組からは廃止する。 ④ボランティア感謝の会を実施することが難しいため、主な取組からは廃止する。しかし、ボランティアへの手紙を書くなどの活動を通して、思いやりの心を育む活動は継続する。 ・③と④の取り組みは廃止するが、行事や授業などで異学年交流を行う機会を意図的に取り入れる。
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「児童（わたし）は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答80%以上	① 自分の将来を意識して生活ができるように「わたしの夢」を掲示し、将来の自分への関心を高める。 ② 漢字計算オリンピックや教科体育の各種検定、チャレンジブックなど、児童が具体的な目標を決めて取り組める活動を設定する。 ③ キャリア・パスポートを活用して、家庭との連携を図り、学校だけでなく家庭でも児童の夢や目標について考えたり話し合ったりする機会を作る。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○90.0% 保護者：▲78.8% 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。漢字計算オリンピックや各種検定などに加え、朝の学習や授業の導入でこれまでの復習を取り入れるなど、粘り強く学習に取り組む心を育む。そして、進級時や、各行事の時に、自分の目標や夢について触れる機会をつくり、一年間を通して将来について意識させる言葉かけをしていく。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「児童（わたし）は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童、教職員の肯定的回答80%以上	① 朝食食べよう週間やキラキラウィークの設定、お弁当カードや元気アップカードを活用して生活習慣や自分の健康について興味関心を高める。 ② 各避難訓練や交通安全教室での体験を日常生活や普段の登下校に生かせるよう事前指導や事後指導を充実させる。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○92.1% 教職員：▲63.0% 【次年度の方針】 けがマップを導入し、けがが多くなる危ない場所を児童間で共有することで、より安全について考える機会を設けさせる。給食保健委員会で、けがマップの結果などを周知し、学校全体で安全に配慮した生活を送れるよう指導する。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 「児童は自分の良さや考えを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒教職員の肯定的回答80%以上	① 「宮未来キャリア教育」の充実を図り、児童が自分のよさや成長を実感し、自己有用感が高められるよう、児童相互に認め合う場を設けるとともに、教職員も認め励ます指導に努める。 ② 委員会活動や縦割り班活動、学級の係活動や当番活動などを通して、友達やクラス、学校のために自分ができることを考え、実践できる場を設定する。	【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：▲66.7% 【次年度の方針】 委員会活動を含めた異学年の集団で活動する際に、あらかじめ決められた仕事に対して責任感をもって取り組むよう指導し、達成できた際には認め励ます言葉かけをしていく。また、決められたこと以外に児童の意見を集める機会を設けて、1年をとおして各活動の中で1つ達成できるよう指導していく。

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答80%以上	① ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を推進する。 ② 朝の会に「デイリーイングリッシュ」を位置づけ、毎日英語にふれさせる機会を設定する。 ③ 5・6年生は、ALTとの「スピーキングテスト」を年2回行い、話す力の定着度を見取り、指導する。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○81.5% 教職員：▲66.7% 【次年度の方針】 ALTを迎えに行く際には英語を使うなど、習った英語を使う場を設け、教職員間での共通理解を図る。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「児童（わたし）は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童、保護者の肯定的回答80%以上	① 3・4年社会科・総合的な学習の時間において宇都宮市や清原地区の自然・産業・生き物などについて調べ学習を進めることで、郷土宇都宮のよさに気づき、親しむようにする。 ② 5・6年総合的な学習において、宇都宮市の自然、産業、歴史、文化等について学習することを通して、郷土に対する誇りや愛情を育むようにする。 ③ 校内放送で「宇都宮の歌」を流したり、児童が調べた資料を掲示したりして、郷土の歴史や伝統文化などに興味をもてるようにする。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○82.7% 保護者：▲60.1% 保護者の肯定的回答率が目標値を大きく下回っている。 【次年度の方針】 ・「宮っ子伝統文化体験教室」や「ふれあい文化教室」を継続していくとともに、各学年で実践している地域学習や給食で提供する「郷土食」など、「宇都宮の良さ」について学んでいる様子が伝わるように、各種たよりやHPでの発信を工夫する。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童はデジタル機器（パソコン）や図書等を学習に活用している」 ⇒児童、教職員の肯定的回答90%以上	① 発達段階や児童の実態に応じてICTを効果的に取り入れた授業を実践する。 ② ICT 機器や図書資料を有効活用しながら、「児童にとって分かりやすい授業」を目指して指導の工夫に取り組む。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：▲88.2% 教職員：○96.3% 教職員は目標指数に達しているが、児童はやや下回っている。 【次年度の方針】 次年度も継続して取り組んでいく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、持続可能な社会について、関心をもっている」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	① 読書活動の一環として、朝の読み聞かせや教室配置の図書に、環境やエネルギー、国際理解、防災等に係る書籍を意図的に選択し、私たちの日常生活と地球規模の課題がつながっていることを感じさせる。 ② 年度当初に全教職員に共通理解を図るように働きかけ、意識を高めるようにするとともに、5年総合的な学習の時間において、「環境」「国際理解」について学習する際に、SDGsについて意識できるよう配慮する。	【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：▲66.7% 【次年度の方針】 ① 環境に関わる活動をしている委員会を中心に委員会の活動を活性化していく。 ② 学級文庫を活用し、環境やエネルギー、国際理解、防災等に係る書籍を意図的に配置し、私たちの日常生活と地球規模の課題がつながっていることを感じさせる。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要としている児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	① 特別な支援が必要な児童に対して、個別の支援計画を作成・活用し、学校全体で指導にあたる。 ② 職員会議の折に、児童の情報交換を行うことで共通理解を図り、適切な支援をする。	【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：○96.3% 教職員は目標指数に達している。 【次年度の方針】 次年度も継続して取り組んでいく。

3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 学校いじめ防止基本方針に基づき、常に実態把握をしながらいじめの未然防止、即時対応に努める。 ② いじめの早期発見・早期解決のため、5月、9月、11月、2月に実態調査を実施し、学期に1回教育相談を行う。 ③ いじめゼロ強調月間の取組を充実させる。 ④ 道徳の時間にいじめに関する内容を扱った授業をするなど、人権感覚の醸成を図る。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○96.7% 教職員：○96.3% 保護者：▲68.6% ・児童、教職員において目標数値を達成することができた。 ・保護者は、目標数値を大きく下回った。 【次年度の方針】 ① 今年度の取組を継続する。 ② 今年度の取組を継続する。 ③ 今年度の取組を継続する。保護者への啓発も継続して行う。 ④ 今年度の取組を継続する。道徳と関連させた体験活動を充実させる（人権週間等）。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「教職員は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答 80%以上	① 教職員が児童のよさを取り上げ、他の児童に紹介するなどして、自己有用感の向上を図る。 ② グループ学習や係活動で、自分の考えを活かしたり、達成感を味わえるようにしたりすることで、帰属意識の高い学級づくりを目指し、不適応反応の予防に努める。 ③ 帰りの会で児童のよい行いを互いに発表し合う活動を取り入れる。 ④ 教職員同士の情報交換を密にして、児童の些細な変化を伝え合えるようにする。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○96.4% 教職員：○92.6% 保護者：○82.8% ・児童、教職員、保護者ともに目標数値を達成することができた。 【次年度の方針】 ① 今年度の取組を継続する。教職員がこれまで以上に児童の良さを取り上げられるように努める。 ② 本年度の取組を継続する。 ③ 本年度の取組を継続する。必要に応じて、関係機関との連携を図る。 ④ 本年度の取組を継続する。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいそいそとした雰囲気である。 【数値指標】 「教職員は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、児童（わたしたち）が楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答 90%以上	① 児童や地域の実態を踏まえて、前年度の評価結果と反省をもとに、教育課程を編成する。 ② 学校行事や児童会活動、学級活動等、児童が主体的・自立的に取り組む場を可能な限り設定する。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○94.8% 教職員：○100% 保護者：▲82.2% 保護者の数値指標は目標を下回っている。 【次年度の方針】 ・学校での取り組みを学校だよりや学年だより、学校HP等で発信していく
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	① 単元や本時のめあてを明確にし、ICT機器を積極的に活用するなど、学習意欲を高めるための授業や分かる授業を工夫する。 ② 整理された分かりやすい板書計画を立てる。 ③ 少人数指導、TTによる指導、日本語指導、かがやきルームの活用などの学習状況を適切に把握し、指導の工夫・改善をする。 ④ 校内授業研究に積極的に取り組み、一人一授業公開を行う。授業を動画で記録し、共有するなど、ICTを活用して参観できる体制を整え、指導法の工夫・改善を図っていく。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○93.3% 教職員：○100% 保護者：▲82.9% 【次年度の方針】 次年度も具体的な取り組みを継続するとともに、教職員の取り組みや研修の様子を学校だよりや学校HPで発信していく。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校運営の方向性を明確にし、教員も専門スタッフも「チームとしての学校」の一員として目的を共有し、取組の方向性を揃えるようにする。 ② 日頃より良好な人間関係作りに努めるとともに、教職員一人一人の能力、得意分野を生かした組織作りに努め、やりがいをもって仕事ができる環境を整えていく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：▲88.9% 目標値を1ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・①②ともに今年度の取組を継続する。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員の毎月の時間外勤務状況を正しく把握し、必要に応じて個別の面談や医師による健康相談を実施できるようにする。 ② 業務の精選・見直し、ICT化等事務処理の効率化など長時間労働の改善のため、校務分掌の見直しを行う。 ③ 学年、ブロック、あるいは個人で「今月のリフレッシュデー」を設定するとともに、勤務時間を意識した勤務に心がけるなど、長時間勤務の改善に努める。	A	【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：▲70.4% 肯定的回答率が目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・①②③ともに次年度の取組を継続するとともに、働き方改革について検討する部会を校務分掌に位置づける。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「私は今の学校がすきです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「学校は、児童や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員、保護者の肯定的回答 90%以上	① 小中が情報を交換し合い、義務教育9年間を通した系統的な指導と地域の教育資源を活用した特色ある教育活動を推進する。 ② 小中間の交流活動を活性化することで、6年生児童がスムーズに中学校生活をスタートできるようにする	B	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：▲82.1% 教職員：▲81.5% 保護者：▲80.3% 【次年度の方針】 ①小中が情報を交換し合い、義務教育9年間を通した系統的な指導と地域の教育資源を活用した特色ある教育活動を推進する。 ②地域学校園あいさつ運動やお弁当の日等小中学校で共通して取り組んでいるものやその意義について教職員間で目的を明確化し合ったり、児童に伝えたりしていく。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 「学校は家庭・地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域の肯定的回答 90%以上	① 読書ボランティア、外部講師や地域ボランティアと連携した活動を各学年とも学期に1回以上実施する。 ② 各学年の校外学習をはじめとして、地域と連携した教育活動の実施に向け、「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効に活用し、学校運営の充実を図る。 ③ 「ふれあい発見ラリー」や「6年夢実現教室」において、地域の企業や様々なジャンルで働く方々を招き、仕事に関する話や実演などを通して、児童が自らの将来に関心をもてるようにする。	B	【達成状況】 ・肯定的回答 保護者：89.8% 地域住民：○100% 【次年度の方針】 ①読書ボランティア、外部講師やPTA・地域ボランティアと連携した活動を各学年で実施する。 ②各学年の校外学習をはじめとして、地域と連携した教育活動の実施に向け、「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効に活用し、学校運営の充実を図る。 ⑤「ふれあい発見ラリー」や「6年宮っ子『夢』教室」において、地域の企業や様々なジャンルで働く方々を招き、仕事に関する話や実演などを通して、児童が自らの将来に関心をもてるようにする。

6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者、地域の肯定的回答80%以上	① 毎月一回安全点検を実施し、学校環境における潜在的危険を点検観察し、児童が常に安全な環境で学習活動が行えるように努める。 ② 特に児童が多く活動を行うと思われる箇所の設備等においては日常的に点検を行い、必要に応じて修繕等を迅速に行うよう	B 【達成状況】 ・肯定的回答 保護者：○82.1% 地域住民：○80.0% 【次年度の方針】 ①②ともに今年度の取組を継続する
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 「児童はICT機器を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	① 一人一台端末活用研修やプログラミング教育の研修を行い、授業での積極的な活用を図る。 ② ICT機器が使いやすい環境整備に努める。また、ICT支援員を有効に活用して児童が基礎的なスキルを身に付けられるようにし、日常的に一人一台端末を使用できるようにする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 教職員：○92.6% 教職員は数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 次年度も継続をしていく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答90%以上 ⇒教職員の肯定的回答85%以上 ⇒保護者、地域の肯定的回答80%以上	① 地域と連携した朝のあいさつ運動を行う。 ② 生活委員によるあいさつ運動や、あいさついっぱい週間を行うなど、あいさつ運動に積極的に取り組む。 ③ 教職員が率先してあいさつをすることで、あいさつがしやすい雰囲気醸成する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○90.9% 教職員：▲70.4% 保護者：○81.3% 地域：○88.9% ・児童、保護者、地域住民ともに目標数値を達成することができた。 ・教職員は、目標数値を下回った。 【次年度の方針】 ① 今年度の取組を継続する。 ② 今年度の取組は継続する。 ③ 今年度の取組は継続する。率先垂範を心がけ、教職員が手本を示し、あいさつの活性化を図る。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「児童は授業と生活の決まりやマナーを守って生活している」 ⇒児童、教職員の肯定的回答80%以上	① 「清原っ子みんなのやくそく」と「清東小スタンダード」をもとに週の生活目標などに掲げながら、基本的生活習慣を身に付けさせていく。その中でも、「廊下は歩く」「時刻を守る」など、学校生活で中心となるきまりについて、教職員が足並みを揃えて指導していく。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○94.2% 教職員：▲59.3% ・児童は、目標数値を達成することができた。 ・教職員は、目標数値を大きく下回った。 【次年度の方針】 ①学校全体で巡回指導を強化したことにより、改善が見られつつあるため、今年度の取組を継続する。きまりやマナーの指導を発達段階に応じて、全教職員で引き続き行う。
	B3 地域や学校、友達のためになるような行いをしている。 【数値指標】 「私は、地域や学校、友達のためになる善い行いをしたことがある」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	① 帰りの会などでよい行いを認め合い、奨励することにより、意識の高揚を図る。 ② 特に顕著な行いは、「宮っ子心の教育表彰」で表彰し、学校全体で善行を共有する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○87.3% ・児童は、目標数値を達成することができた。 【次年度の方針】 ① 今年度の取組を継続する。教職員は帰りの会のみならず、日頃から他の良さを認め合う雰囲気づくりに努める。 ② 今年度の取組を継続する。

	B4 食後の歯磨きの大切さを知り、丁寧に磨いている。 【数値指標】 「私は、食後ていねいに歯磨きをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「児童は、食後の歯磨きの大切さを知り、丁寧に磨いている」 ⇒教職員、保護者の肯定的回答 80%以上	① 給食後の歯磨きタイムを充実させ習慣化を図る。 ② 学級活動や保健学習の時間を活用し、養護教諭と連携しながら、歯の健康について発達段階に応じて丁寧に指導し、理解を深める。 ③ 元気アップカードや健康診断のお知らせ等を通して家庭と連携、協力する。 ④ 保健日よりで学校での歯磨き指導の様子を知らせ、歯磨きの意義について周知を図る。 ⑤ 休日の歯磨きの定着を図るために、長期休みに歯磨きカレンダーを配付し、毎日の歯みがき習慣を継続する。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○93.0% 教職員：○81.5% 保護者：▲73.4% 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。給食後の歯磨きタイムの際に、学級の児童が全員で参加できるように担任が指導していく。より上記を徹底するために、月曜日に歯磨きセットを忘れないよう、連絡帳で保護者の協力を仰いだり、毎週短学活で確認したりする。
	B5 互いに協力して学習することにより、考えを深め合っている。 「私は、話し合い活動することにより、友達の考えや思いがよく分かる」 【数値指標】 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 「児童は、互いに協力して学習することにより、考えを深め合っている」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学習活動の中で自分の考えを書いたり伝えたりする時間を意図的に設定し、自分の考えを深めたり、友達の考えのよさに気付いたりできるようにする。 ② 各教科の授業で、言語活動（人前で話したり意見や考えを表現したりする活動）の充実を図る。 ③ ペア・グループ学習などの学習形態を工夫し、学び合いのよさを意識させる活動を取り入れる。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：○90.3% 教職員：▲81.5% 児童は数値指標を上回っているが、教職員は大きく下回っている。 【次年度の方針】 学習指導と児童指導を両立させながら、今年度の取り組みを根気強く継続していく。
	B6 様々な自然や人々とふれあい、体験する機会を作り、豊かな感性や人とのかかわる力を育てている。 【数値指標】 「児童は、他の学年の人や地域の人たちと一緒に活動するとき、進んで活動している。」 ⇒児童、教職員、保護者、地域の肯定的回答 90%以上	① 地域探検や夢実現教室、ふれあい発見ラリーなどの活動を通して、地域の自然や文化財等を活用するとともに、様々な人々とふれあう機会を設定する。 ② ホームページや学校だよりなどを活用して、地域教材を利用した学習や行事について保護者へ周知し、学校の取組について理解が深まるよう努める。 ③ 自然や人々とふれあい、体験する機会を作るために、PTAや保護者、地域の団体などに学習や行事の協力をお願いする。	【達成状況】 ・肯定的回答 児童：▲84.8% 教職員：▲85.2% 保護者：▲73.5% 地域住民：○100% 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。教科指導において、生活科や理科、社会科の授業で自然に関する単元において、観察などの体験型の授業を取り入れる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では、学校教育目標として「主体的で知・徳・体の調和のとれたたくましく生きる児童の育成」を掲げ、「学びの連続性を踏まえ、児童が社会において自立的に生きる基礎を培う活気に満ちた学校づくり」を学校経営の理念として、保護者や地域等の協働のもと、全教職員が一丸となって取り組んでいる。

学校マネジメントアンケートの肯定的回答率は、児童及び地域住民はほぼ目標数値を達成しているが、保護者においては目標数値に達しない項目が過半数であった。

A11「いじめへの対応」については、予防、早期発見、早期解決等、校内及び関係機関との連携した組織的な取組の継続・強化に努めるとともに、学校での取り組みについての発信にも努めていきたい。また、A7「宇都宮の良さ」については、総合的な学習の時間や生活科、社会科、校外学習等を通して、身近な地域や宇都宮市の良さに気付き、郷土愛を醸成させるとともに、各種たよりやホームページなどで、学校での取り組みを積極的に情報発信していきたい。

教職員は、異動等により昨年度から半数が入れ替わった。A16「勤務時間を意識した業務効率化への取組」については、例年課題となっている。業務の精選や校務分掌に働き方改革について検討する部会を設けるなど、具体策を推進して教職員の健康保持や教材研究、児童に向き合う時間の確保に努めていきたい。

7 学校関係者評価

- ・経営方針(4)危機管理意識の高揚と関連して、保護者による送迎が多く、中には校内に入らず道路で車を降りる児童がいてたいへん危険であると感じる。暑い日も寒い日も登下校の見守りを続けているが、送迎が多く残念である。
- ・A11「いじめへの対応」について、保護者のみ数値が低い。児童の肯定的回答率は96.7%と高いことから、保護者には学校での取り組みを知ってもらうための情報発信が必要ではないか。
- ・「学校で学ぶこと」と「家庭で学ぶこと」がある。本来家庭で教えるべきことにまで学校に負担が行っているのではないか。「親学講座」を実施するなどして、親にも学んでもらう機会を設けたらどうか。
- ・防犯・交通安全の両方の側面から、育成会や交通指導員、学校等と連携しながら、通学路の安全確保のための活動に継続して取り組んでいく。
- ・地位協議会の在り方について再考し、学校や地域と協働しながら、児童のためになる取り組みや学校への支援を充実させていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・次年度も本校の特色ある教育活動である「キャリア教育」の充実を図り、保護者・地域・企業等と連携しながら学校教育目標の具現化に向けて取り組んでいく。
- ・児童が明るくいきいきと学校生活を送り、自己有用感が高められるよう、児童相互に認め合う場を設けるとともに、教職員も認め励ます指導を継続することで、一人一人のよさや可能性を伸ばし、主体的に困難に立ち向かうことができる児童の育成に努めていく。
- ・学習面においては、「宇都宮モデル」を踏まえた基本的な学習態度の徹底を図るとともに、ICTの活用を推進し、「児童が主体的に学習に取り組む授業の工夫」や「協働的な学び合いの充実」に継続して取り組んでいく。
- ・いじめ対策については、あらゆる教育活動を通じて「絶対に許されない」ことであることを、全教職員が共通認識のもと継続指導するとともに、「アンケート調査」「教育相談」「いじめゼロ集会」「ケース会議」「SCの活用」などにより、不登校対策と併せて未然防止、早期発見、早期解決に努める。
- ・基本的な生活習慣を身に付けるために、「清原っ子みんなのやくそく」と「清東小スタンダード」をもとに週の生活目標を掲げ児童に意識付けを図ったり、巡回による見守り・指導を継続したりするなど、全教職員が足並みを揃え、児童の発達段階に応じた指導に取り組んでいく。
- ・教職員が健康的でやりがいを感じながら勤務し、質の高い教育を行うために、働き方改革について検討し、保護者や地域の理解・協力を得ながら実践していく
- 「あいさつ」については、教職員が率先して手本を示すとともに、児童会や地域学校園のあいさつ運動の機会を活用するなど、さまざまな場面で取りくみ活性化を図っていく。
- ・学校の取組を保護者や地域の方々に知っていただくために、各種たよりやホームページ、地域協議会やオープンスクールなど、様々な機会、方法を活用して情報を発信して周知を図っていく。